

【スローガン】  
楽しみ7分、活動3分  
をいつも心に、仲間の  
輪を広げよう

# 年金者大阪 しんぶん大阪

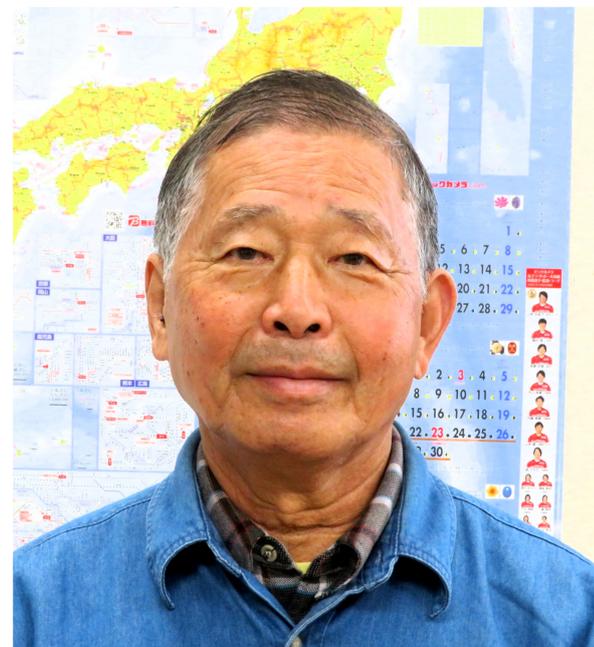
全日本年金者組合 大阪府本部  
〒530-0041  
大阪市北区天神橋1-13-15  
TEL06[6354]7207  
FAX06[6354]7746  
Eメール  
info@o-nenkin.com

ロシアは侵略戦争をやめよ！

国は年金引き下げをやめ 大阪府・市の進めるカジノを認めるな！

## 生き生き人生

西村 唯弘さん (77歳) 八尾支部



「運のいい人生 いい人間関係ができた」

生まれは大阪市阿倍野区。父が軍隊に行き身体を壊して唯弘さんが1歳の時亡くなり、母は小1で亡くなった。祖父母に育てられたが、祖母は小5で祖父は中3で他界した。もう小さい時から親のいないのは当たり前だに思っていた。姉が9歳上で、中3の時結婚していた姉の所に転がり込んだ。中卒で住友化学に就職。教育実習生の成績が悪

いとクビになると言われ、1年遅れで天王寺高校定時制へ入学。定時制に通ううちに、大学進学を目指すことになり、勉強をやりだす。定時制高校で「大変身」したそう。4年間好きな映画は一度も観なかった。定時制高校4年生の時大学受験のために退職して勉強に励んだが浪人を2年。しかし、八尾高校定時制の事務の仕事について、大阪教育大に入

学。八尾高校には6年間勤め労働組合に加入し、分会の青年部長などもやり組合運動にかかわるようになる。東大阪市で教員生活。当時中学校はどこも荒れていた。組合の役員選挙も大変だった。「解放教育」が大きな争点だった。柏原市に地方選挙の応援に行った時、養護教員をしていた妻のシロミさんと知り合い、その後結婚した。唯弘さんは「私が見染められた」と言う。助け合って労働運動に励んだ。妻のシロミさんは「夫は出かけることが多く子どもが3人いて、たいへんだった」と言っているそう。

約10年間夜昼働いたり学校に行ったりだったのが定年後仕事はしなかった。すぐに年金者組合に。一年後には支部書記長、さらに一年後支部長になった。以来14年やっている。「年金者組合に入ってから初めてこうした運動をする人も増やしていかなければと思った。この運動の大切さを知ってもらって」と唯弘さん。旅行好きで一番気に入ったのはケニアだそう。酒豪だが週4日の休肝日。「年金者組合や医療生協運動で、いい人間関係ができ充実した人生」と笑った。

取材 長江勝・江川信雄

### 試金石

今年になってフランスでは、政府が2030年までに進めようとしている年金受給年齢を、現行62歳から64歳に引き上げる案に抗議する大規模なストやデモが、1月19日パリの40万人を含む全土で200万人、31日280万人、2月7日200万人と続いています。物価やエネルギー価格の高騰に見合う賃上げや労働条件の改善を求めるストがイギリス・スペイン・ポルトガル・デンマークなど各国でも起こっています。わが国では1月20日厚生労働省が2023年度の年金額改定について公表しました。マクロ経済スライド0.6%分の削減を適用し物価高に程遠い実質減です。このような政府の仕打ちに強い怒りと共に、ヨーロッパに呼応する運動の構築の必要性を痛感します。

(K・I)



# 国は補聴器購入への公的補助の制度化を

年金者組合大阪府本部 補聴器助成推進・支部学習交流会

日時：2023年2月22日(水) 13:30~16:00 会場：大阪グリーン会館2階ホール

てびきを元に説明する林洋司府本部執行委員

弥生間近の2月22日13時30分~16時まで上記の会場にて補聴器助成推進支部学習・交流会を48人の参加で開催しました。

## ◆松原支部

以外にも自民党が賛成に回り助成制度が、採択された。(維新は反対) 次にも他団体と共に市長あてに市独自の補助をもとめる要望書を提出。

## 大阪の請願状況

①国への意見書採択自治体 ●池田・摂津・吹田・交野・松原・富田林・泉大津市 ②市町村独自の助成制度採択自治体 ●松原・富田林市 ③市町村独自の助成制度実施自治体 ●貝塚市

## 支部実践報告

### ◆高槻支部

市民だけの意見書採択は難しい。現在市長への直訴を重点に取り組んでいる。「補聴器アンケート」を実施したが3割の回答だった。他団体と共同して運動を拡げていく。

### ◆富田林支部

請願書を社保協・新婦人と共同で提出、全会一致で可決。「聞こえに関するアンケート」を実施

# 介護ワザル

今回はヘルパーの仕事

をしながら実母(93)の介護をしているSさん(68)です。独身で、以前は市役所の職員でしたが長期休職した後退職し今の仕事に就きました。実母は交通事故により

右目を失明し右耳も聞こえません。仕事から帰ると大音量でテレビを見ていたり日々何かが起こり注意するとかんしゃくを起し物を投げつけ大げんかになることも。施設入所も頭をよぎる。



収入は、母の障害年金、国民年金、ヘルパーの給料。ストレス性胃腸炎になつた時も3日で復帰し無理を重ねている。

行政には「幽けき声」を擲い上げる部署を置いてほしいと切に願います。

# 年金相談

(前号の続き)

Q 「急速な少子高齢化で年金の持続的維持のために、年金削減はやむを得ない」との政府の主張は本当か?

A 年金給付削減は、現在の年金受給者だけではなく、将来の年金受給者である若者の年金水準をさらに引き下げることになるだけで、国民一人当たりの「年金受取総額」を減らし、貧困と格差を広げるだけです。

政府の「進行する少子高齢化を見据えた新たな年金財政の在り方」の具体的な内容は、年金財政への必要な国庫負担、資本負担増責任を回避し、ひたすらに年金給付水準削減を図るものです。低額年金への一切の配慮もなく一律に削減するもので、年金制度維持の政府の責任を放棄するものです。少子高齢化などの日本

## 日本の年金制度の問題点(4) 少子高齢化対策で年金削減は理不尽

の社会経済変動に対応する年金制度を構築するには、年金財政への国庫負担率や資本負担率を増やす対応が必要です。「急速な少子高齢化」の主要な原因は、財界、政府が主導した「労働規制の緩和」に起因する非正規雇用、低賃金の蔓延、社会保障など公共の仕組みの削減などによる格差と貧困の拡大であり、労働者が結婚も子供を作ることすらためらう状況を生み出したことにあります。

その社会的責任として、国と大企業・資本側の年金財源負担増が当然必要です。日本の極端な「少子高齢化」は、個々の労働者市民に責任があるわけではありません。

社会保障部